

おおやまふどうとひなたやくし

#31 大山不動と日向薬師

作者：宇都宮泰長（うつのみや・やすなが 1936-）

鈴木隆良（すずき・たかよし 1943-）

刊行：昭和56年（1981）



解題

■ 内容

大山講、大山詣で名高い大山不動、鉦彫り薬師として有名な日向薬師、その史跡と伝説を平易に解説した資料である。

本書は大山を「あらぶる」神の山としての「雨降山（あふりさん）」と仮定し、それに相対する日向を「ひむけ」、即ちあらぶる神の鎮静の地と仮定して執筆されている。

構成は大きく「大山—その史跡と伝説」、「日向郷—その史跡と伝説」、「伊勢原の古寺社」の三つの項目に分類される。それぞれの項目は、さらに関連する寺社や伝承についての小項目に分けられ、写真等を用いて解説されている。著者が伊勢原市教育委員会の発行した史跡・文化財のガイドブック『このまちを語る』内の「日向薬師から大山へ」に触発を受け、このテーマについて書かれた書物の調査、現地への取材を行い、それをまとめた。文中で紹介されている交通手段については出版された年代時点での案内となっている。

当時、当テーマを扱った一般向けの読み物が存在しなかったため、そこをターゲットに想定して出版された。

「大山—その史跡と伝説」の項目では大山参道の鳥居から、「大山寺」、「阿夫利神社下社」等を通り「石尊社」まで至る道のりを解説しながら、通過する地名の由来、その場所ゆかりの仏像や鐘楼などを紹介している。



[K18.64/17] [N5.2/ウツ]

第3章 思想・宗教

項目の末尾では大山の昔話、童謡などが紹介されている。大山に関連する事柄として、大山不動で仏門へ入り、そこから日本廻国を行なった木喰についても解説されている。

「日向郷—その史跡と伝説」の項目では「日向薬師」からはじまり、「浄発願廃寺」、「大友皇子の陵墓」までの道のりについて、寺の由来や建物・仏像、まつわる伝説を交えながら解説している。「日向薬師」では「薬師三尊」、「四天王立像」など宝物館に安置されている仏像について大きさ、制作技法、制作年や特徴などについて解説されている。「浄発願廃寺」では開山した弾誓上人について出自や伝説などが紹介されている。

「伊勢原の古寺社」では、「伊勢原大神宮」、「太田道灌の墓」、「三ノ宮比々多神社」、「高部屋神社」について、交通手段、由来などが解説されている。

■ 作者

作者は宇都宮泰長と鈴木隆良。宇都宮泰長は鵬和出版主宰。福岡県京都郡豊町出身。昭和48年鵬和出版を始め、友人の詩集や自著を出版。『日中戦争記』（全7巻）（村田和志郎著 鵬和出版 1984～）などを出版した。鈴木隆良は東京出身、伊勢原在住。このほかの経歴については不詳。

参考文献

虎関師鍊「元亨釈書」（『國史大系 第31巻』国史大系編修会編 吉川弘文館 1932）[210.08/4/31]

『柳宗悦選集 第9巻』柳宗悦著 春秋社 1955 [750.8/2/9]

伊勢原市教育委員会「日向薬師から大山へ」（『史蹟と文化財のこのまちを語る』1971）[K291.64/1]

『新編相模国風土記稿 第1巻』蘆田伊人校訂 雄山閣 1998 [K291/1D/1]

『新編相模国風土記稿 第2巻』蘆田伊人校訂 雄山閣 1998 [K291/1D/2]